

Ⅲ. 学会発表

- 1) 朝倉 正. (宿題報告) 抗がん剤耐性がん細胞に対する耐性克服薬の開発とターゲッティング療法. 第132回成医会総会. 東京, 10月.
- 2) 堀内公子, 箕輪はるか, 吉澤幸夫. 東京都の湧水中のラドン濃度 (東京の名湧水57選). 日本温泉科学会第68回大会. 天童, 9月.

GMP 対応細胞・ベクター産生施設

教授：本間 定 腫瘍免疫学
講師：大前トモ子 培養施設管理

教育・研究概要

これまで本施設を利用して多形性膠芽腫, 進行膀胱癌, その他の悪性腫瘍に対して樹状細胞ワクチン療法が施行され, 多くの知見が得られてきた。また, 本邦初の耳鼻科領域の再生医療として鼻粘膜シートを用いた真珠腫術後鼓室再建のための再生医療も行われた。今後も本施設を利用して同様の, また新たな細胞治療・再生医療が予定されている。一方, 細胞治療, 再生医療を施行するにあたり, 「再生医療等安全性確保法」が平成25年11月27日に公布され, 平成26年11月25日より施行されたため, 本施設もこの規制下に今後の活動を行うこととなる。従って, 本学においても本法律の中で指定する第2種, 第3種再生医療を施行していくための体制づくりが必要となった。このため, 認定再生医療等委員会を設置し, あわせて本GMP対応細胞産生施設のPMDAによる査察, 厚生労働省による施設承認を獲得する必要がある。本年度は委員会設置のためのワーキンググループの発足と会合を開催, 施設承認のための各種機材の適格性などにつき検討を行った。

「点検・評価」

ワーキンググループの活動で認定再生医療等委員会の人員もほぼ決定し, 細胞治療・再生医療の学内における承認のプロセスの検討が進んでいる。また, PMDAの査察に備えて, 従来型のクリーンベンチからすべて安全キャビネットへの交換の必要があると考えられる。さらに査察に対応できる施設面の点検を進めていく。